

Rec'd PCT/PTO 20 SEP 2006

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

10/553466

REC'D 12 MAY 2005

WIPO

PCT

代理人

角田 芳末

様

あて名

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 1 丁目 8 番 1 号
新宿ビル

PCT

国際調査機関の見解書
(法施行規則第 40 条の 2)
[PCT 規則 43 の 2.1]

発送日
(日.月.年)

10.05.2005

出願人又は代理人

の書類記号

S05P0179W000

今後の手続きについては、下記 2 を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2005/002196

国際出願日

(日.月.年) 08.02.2005

優先日

(日.月.年) 16.02.2004

国際特許分類 (IPC) Int.Cl.⁷ H01L25/065, 25/07, 25/18

出願人 (氏名又は名称)

ソニー株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 見解の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT 規則 43 の 2.1(a)(i) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☒ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関が PCT 規 66.1 の 2(b) の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式 PCT/ISA/220 を送付した日から 3 月又は優先日から 22 月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式 PCT/ISA/220 を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式 PCT/ISA/220 の備考を参照すること。

見解書を作成した日

15.04.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号

特許庁審査官 (権限のある職員)

田中 永一

電話番号 03-3581-1101 内線 3469

4 R

9539

様式 PCT/ISA/237 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、
以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	2-4	有
	請求の範囲	1	無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-4	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-4	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: JP 5-109977 A (三菱電機株式会社) 1993.04.30
 文献2: JP 11-168185 A (ローム株式会社) 1999.06.22
 文献3: JP 10-200062 A (株式会社ティ・アイ・エフ) 1998.07.31
 文献4: JP 2001-156249 A (アジレント・テクノロジーズ・インク)
 2001.06.08

請求の範囲1に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1から新規性を有さない。文献1には、ワイヤボンディングパッドと、周辺部の近傍に設けられた外部端子取り出しのためのパッドと、ワイヤボンディングパッドと配線で接続され中央部の近傍に設けられた外部端子取り出しのためのパッドとを有するICチップBと、外部端子取り出しのためのパッドを有するICチップAとを積層した半導体装置が開示されている。

請求の範囲2に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より進歩性を有しない。ICチップにおいてバンプをどの位置に配置するかは設計的事項にすぎない。

請求の範囲3及び4に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献1および文献2より進歩性を有しない。文献2には、ワイヤボンディングに用いられるパッドと、フィールド・プログラマブル・ゲート・アレーが形成された第1チップ8と、中央処理ユニットが形成された第2チップ6とを積層した半導体装置が開示されている。

第Ⅶ欄 国際出願の不備

この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

FIG. 2において、DRAMの領域に引用符号「301 (ワイヤ)」が付されている。